

「宇佐神宮・国東半島」を 世界遺産にする写真展

ごあいさつ

正月はお宮へ初詣でにでかけ、お盆はお寺へ墓参り。結婚式は神前で、お葬式は仏式で。外国人からは不思議がられるそんな日本の風習の原点が神仏習合です。

そのルーツは宇佐神宮および六郷満山を擁する国東半島に生まれ、やがて日本全国へと広まりました。

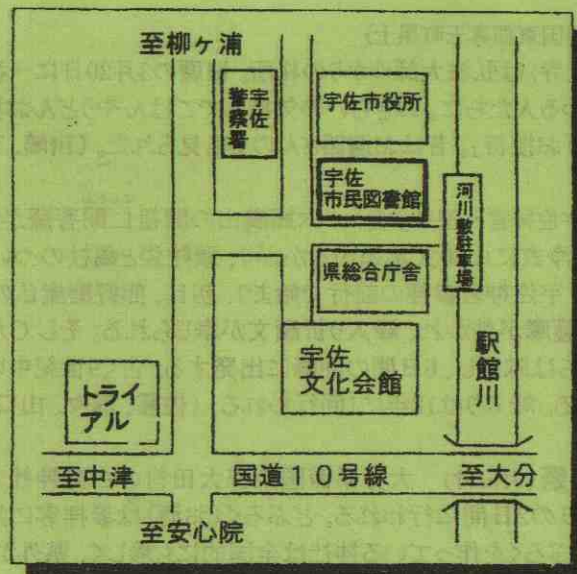
神を仏とし、仏を神として、生活のなかにみごとに溶け込ませてきた日本人の生き方は、21世紀の世界に求められている異文化共存のさきがけです。

近年、宇佐神宮と国東半島を世界遺産にしようという機運も高まっています。今回の企画展は、写真展を通じて世界遺産認定を目指している「写団・国東半島」のみなさんの協力で実現しました。

神仏習合の発祥地、宇佐神宮と国東半島の写真を通じて、人類の共存のありかたを考えるきっかけになれば幸いです。

平成16年9月

宇佐市民図書館
渡網記念ギャラリー



平成16(2004)年9月4日 / 発行・宇佐市民図書館
大分県宇佐市上田1017-1 TEL.0978-33-4600

「宇佐神宮・国東半島」 を 世界遺産にする 写真展



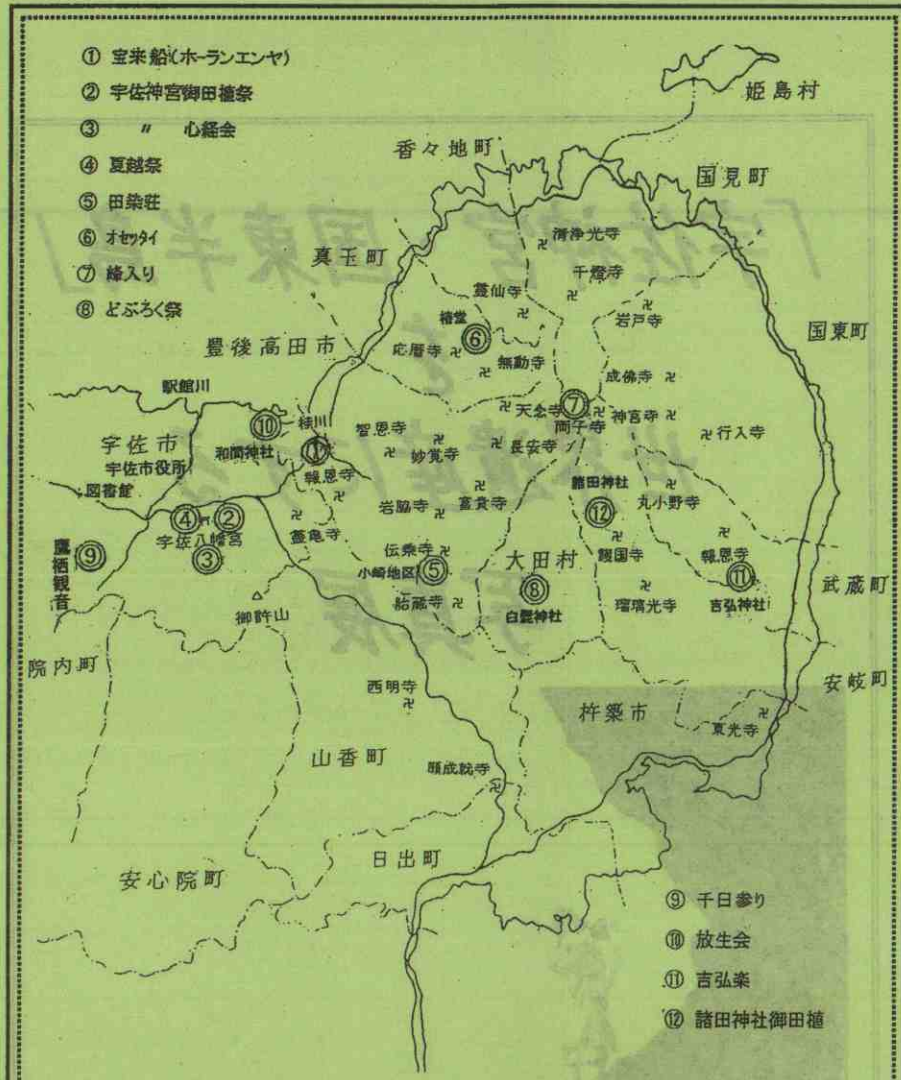
峰入り行事

2004.9.4 ~ 10.3

10:00 ~ 18:00 (日曜のみ ~ 17:00)
休館日…毎週月曜日・祝祭日・月末木曜日

宇佐市民図書館
渡網記念ギャラリー

協力 / 写団・国東半島



- ① 宝来船(ホーランエンヤ)
- ② 宇佐神宮御田植祭
- ③ 心経会
- ④ 夏越祭
- ⑤ 田染荘
- ⑥ オモイ
- ⑦ 峰入り
- ⑧ どぶろく祭

- ⑨ 千日参り
- ⑩ 放生会
- ⑪ 吉弘楽
- ⑫ 諸田神社御田植

行事スケジュール

年始め頃(12年に1回)峰入り
 1月初旬 ホーランエンヤ
 1月10日 千日参り(宇佐市鷹栖観音)
 2月13日 宇佐神宮心経会
 4月(旧暦3/20) お接待(真玉町椿堂)
 3月(旧暦1/15) 諸田山神社御田植祭
 6月田植元時期 田染荘
 7月(旧暦6/13) 吉弘楽
 7月26日 宇佐神宮御田植祭
 7月31日~8月2日 宇佐神宮夏越祭
 10月中旬 放生会
 10月17日~18日 どぶろく祭(大田村)

※日程は変更になることがありますので
 ご注意ください。

写団・国東半島

国東半島の写真愛好家で平成14年12月に結成(37名)。地域内に存在する有形無形の文化遺産にカメラを向け、宇佐神宮・国東半島の世界遺産認定を目指して写真展を展開中。これまでに、大分空港ギャラリー(平15・12~16・2)ほかで同写真展を開催している。

会長/中越誠也 0978-22-2097
 事務局/0978-67-2077 & 090-8409-9796

各行事概要 (各文末カッコ内は撮影者)

①ホーランエンヤ(豊後高田市玉津・県選択無形民俗文化財) 江戸中期に始まったと伝えられ、1月上旬に行われる漕ぎ船神事で、下帯姿の若者が宝来船に乗り込んで桂川に漕ぎ出し、笛や太鼓に合わせて「ホーランエンヤ、エンヤサノサッサ」という掛け声とともに上流の若宮八幡社に向かい、航海安全と豊漁を祈願する。(北原、瀬々、吉成、小田原)

②宇佐神宮御田植祭(宇佐市・宇佐神宮内) 毎年7月26日に小祭として近郷の市民の奉仕のもとに楽しく行われる。鳥羽天皇の保安4(1123)年に公順宿禰が始めたといわれている。(東、川崎)

③宇佐神宮心経会(宇佐市・宇佐神宮内) 宇佐神宮で行われる年始めの厄除け行事。本来は弥勒寺で行われていたが、その守護神を祀る八坂神社に受け継がれた。白丁(はくちょう)と呼ばれる白装束の神職たちが鳥居越しに12本の御幣を境内に投げ込むと、参拝者が息災を求めて紙片を奪い合う。この後、荘重な蘭陵王の舞が演じられる。(東、川崎、宮崎、吉成)

④宇佐神宮夏越祭(宇佐市・宇佐神宮内) 夏越祭は御神幸祭といわれ、その昔は御祓会とも呼ばれていた。起源は不明だが、1108年以前から行われていたといわれ、鎌倉時代には和間の浜まで御神幸されていた。三基の神輿が先陣争いをする宇佐神宮最大の祭りだ、けんか祭りともいわれる。(東、川崎、小田原、鈴木)

⑤田染荘(豊後高田市嶺崎) 豊後高田市嶺崎の小崎地区はその昔、宇佐八幡宮の荘園であった。地区に残る絵図や古文書によって、平安時代から集落の位置や水田が現在でもほとんど変わっていないことが判明。6月に田植祭、10月に収穫祭をし、米は宇佐神宮に献穀される。(東、川崎、中越)

⑥お接待(西国東郡真玉町黒土) 椿堂(椿光寺)は弘法大師ゆかりの札所。旧暦の3月20日に一番札所から各札所をまわる人たちに、ねぎらいの気持ちでごはんやうどんお菓子などをふるまうのが「お接待」。昔はお遍路さんの姿も見られた。(川崎、吉成)

⑦峰入り(宇佐神宮~国東半島) 六郷満山の開祖仁開菩薩が創始したと伝えられる。浄衣に山袴大黒頭巾をかぶり、頭陀袋と錫杖のついた行者杖を持つ行は、宇佐神宮参拝の前行で始まり、初日、熊野磨崖仏の不動明王の前で開白護摩が焚かれ、峰入り祈願文が奉じられる。そして大先達を先頭に行者たちは隊列し、6日間の回峰に出発する。古く9世紀中頃から行われたようである。峰入りは12年に1回行われる。(佐藤、瀬々、山口、小田原)

⑧どぶろく祭(大田村) 大分県西国東郡大田村の白髭神社で、毎年10月17日と18日の2日間に行われる。どぶろく(お酒)は参拝客に無料でふるまわれる。どぶろくを作っている神社は全国的にも珍しく、県外からも多くの参拝客が訪れる。他に、イベントとして髭自慢コンクールがある。その名の通り、髭の美しさや長さを競う。(北原、瀬々、広本)

⑨千日参り(宇佐市拜田) 一日のお参りで千日お参りしたのと同じご利益があるといわれる千日参りは、1月10日午前8時ごろから鷹栖観音堂で行われる。特に頭がよくなるように願をかけるとご利益があるといわれるので、学

⑩放生会(宇佐神宮) 宇佐神宮で10月の中秋祭に行われる。神宮での放生会の開始は天平16(744)年という。南九州の隼人が反乱を起こしたため、養老4(720)年、大和朝廷は宇佐に勅使を派遣し、抵抗する隼人に対し傀儡(操り人形)の舞で油断させ、鎮圧した。ところが隼人の首百個を凶首塚に埋めたところ病気がはやり、凶作となり、隼人の霊の祟りとされた。この霊を慰めるために行われたのが放生会である。(瀬々、山口、中越)

⑪吉弘楽(武蔵町吉弘地区・国重要無形民俗文化財) 南北朝時代にこの地に入った吉弘正賢が、戦勝と五穀豊穰祈願のために始めたといわれている。楽庭八幡社で毎年旧暦6月13日に行われる祭り。楽は当社の楽庭で、虫送りの祈願のために奏せられる。(中越、神山、石井、丸尾)

⑫諸田山神社御田植祭(安岐町明治・県指定無形民俗文化財) 諸田山神社で旧正月15日の祭典に行われる。文政4(1821)年奈多八幡社から伝えられたもの。田植の神事で斎場は社前広場の四隅に笹竹を立て、しめ縄を張り、神田に見立てる。奉仕者は田神主1名ほか17名が役割、奉仕者のひょうきんなアクションもあり、見物人の笑いを誘う。(神山、重光、丸尾)

撮影者別出品目録

●東 正則 (夏越祭、心経会、御田植祭、田染荘)	4
●川崎善道 (心経会、御田植祭、千日祭、お接待)	4
●宮崎 正 (心経会)	1
●北原修二 (ホーランエンヤ、どぶろく祭)	2
●佐藤春生 (峰入り)	1
●瀬々 涉 (放生会、ホーランエンヤ、峰入り、どぶろく祭)	4
●山口文吉 (放生会、峰入り×3)	4
●川崎静子 (夏越祭、田染荘)	2
●吉成美智子 (心経会、ホーランエンヤ、お接待)	3
●中越誠也 (千日参り、放生会、ホーランエンヤ、吉弘楽、田染荘)	5
●小田原賢司 (夏越祭、峰入り)	2
●神山 一 (吉弘楽、諸田山神社御田植祭×2)	3
●重光アツ子 (諸田山神社御田植祭)	1
●石井 篤 (吉弘楽)	1
●鈴木恒一 (夏越祭)	1
●丸尾茂喜 (吉弘楽、諸田山神社御田植祭)	2
●広本征夫 (どぶろく祭)	1
計	41

関連図書資料

■宇佐・国東関係 『神仏習合』遠日出版(六興出版・1986) / 『宇佐・くにさきの歴史と文化財』(大分県教委・2004) / 『宇佐神宮(週刊神社紀行6)』(学研・2004) / 『八幡大菩薩の世界(図録)』(宇佐風土記の丘歴史民俗資料館・1986) / 『国東半島紀行六郷満山物語』中谷都志郎(大分合同新聞社・1998) / 『宇佐国東の寺院と文化財』(歴史・1990) / 『写真集くにさき』大崎聡明(新人物往来社・1978) / 『神と仏の鬼の郷』(毎日新聞社・1987) / 『六郷満山・ほとけの郷国東』(朝日新聞社・1978)

■世界遺産関係 『世界遺産リスト』(講談社1998) / 『世界遺産年報2001』(日本ユネスコ協会連盟・2001) / 『世界遺産データブック』『世界遺産事典』『世界遺産入門』『世界遺産Q&A』『世界遺産ガイド』(以上、「世界遺産シリーズ」・シンクタンクせとうち総合研究機構・1999~2003) / 『世界遺産のいま』平山都夫ほか(朝日新聞社・1998) / 『世界遺産新なる謎の発見』寺沢精哲(青春出版社・2003) / 『世界遺産を旅する6』日本ほか(近畿日本ツーリスト・1997) 計19冊